

# まつしましょくぶつラボ

代表者 堀之内 江凧（農学部応用生命科学科2年）

## 1. 目的と概要

岡山県倉敷市下津井地区および沖合に浮かぶ松島は、瀬戸内の豊かな自然環境や文化、そして歴史的な景観を有する魅力あふれる地域であるが、その一方で、高齢化や人口減少といった課題に直面している。このような状況のもと、地域内外の人々、とりわけ次世代を担う子どもたちに向けた地域理解のための場の必要性を感じた。子どもたちが自分の調べたい植物を選び、それについて自分で調べ発表することにより、この体験を通じて子どもたちが能動的に学び、感じ、発信できる仕組みを構築することで豊かな瀬戸内の地域資源を「知る」「体験する」「伝える」ための機会を提供することを目的としている。

## 2. 実施期間（実施日）

令和7年7月1日から 令和7年8月12日まで

## 3. 成果の内容及びその分析・評価等

令和7年8月12日、岡山県下津井の松島にて自然体験イベント「まつしましょくぶつラボ」を開催した。小学生7名が参加し、事後アンケートでは「楽しかった（興味喚起）」「また来たい（再訪意欲）」という両項目において100%の達成率を得ることができた。この高い満足度は、植物採集から図鑑での調査、ポスター制作・発表へと至る一連のプロセスにおいて、子どもたちの発見から発信へという主体性を尊重した企画設計が大きく寄与したと分析している。一方で、周辺の小学校へ広報を行ったものの参加者は倉敷市内の7名にとどまり、新規の学生プロジェクトが地域からの信頼と知名度をゼロから獲得していくことの難しさと、広報戦略の壁が明確な課題として浮き彫りとなった。



#### 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

本プロジェクトを通じて、松島という自然豊かな離島が、子どもたちの「地域を知る力」「学ぶ力」「伝える力」を育む優れた教育フィールドであることを実証できた。また、活動を通じて蓄積した知見を基に、地域学生と連携した詳細な運営マニュアルやワークシートのひな形を確立した。これらの資料は今後の類似活動への資源として提供可能であり、本学の他団体や地域社会が松島で教育・振興活動を行う際の一助となる、実用的な資産を残すことができたと考えている。

#### 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

少人数でゼロから企画・運営を行う中で、情熱だけでは乗り越えられないプロジェクト管理の厳しさを肌で学んだ。離島というフィールドでの高い安全管理負荷や、船のチャーター代をはじめとする固定費の重圧は、社会における事業運営のリアルな課題であった。

また、現場では「子どもたちに自ら発見してほしい」という私たちの思いと、「生き物の名前という具体的な正解を知りたい」という子どもたちのニーズとの間にギャップが生じた。この経験を通して、一方的に理想や知識を提示するのではなく、現場の状況や相手のニーズに合わせて柔軟に対応し、全体を俯瞰して心にゆとりを持った調整ができる視点を持つことの重要性に気づかされた。今後の自身のキャリアや学びにおいても、このバランス感覚を大切にしていきたいと強く感じている。

#### 6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

最大の反省点は、事業の持続可能性を見据えた集客戦略と運営体制の甘さである。周辺の小学校6校へチラシを配布するという量的な広報アプローチをとったものの、結果として参加者は7名にとどまった。新規の学生プロジェクトが地域や保護者からの信頼を獲得し、実際の集客へと繋げるためのハードルを低く見積もっていたと言わざるを得ない。

また、活動拠点である松島へのアクセスは船に限定されるため、天候リスクへの対応に加え、参加人数にかかわらず発生する船のチャーター代等の重い固定費がのしかかった。助成金に依存しない自立した収支モデルを構築することが難しいことを気付かされた。

現場の運営体制と教育的アプローチにおいても大きな課題を残した。限られた人員で企画から運営までを担う中、水辺を含む島というリスクを伴うフィールドでは、学生スタッフ一人あたりの安全管理の負荷が想定以上に高かった。さらに、「自然体験を通して自ら図鑑で調べ、主体的に学んでほしい」という私たちの理想と、「生き物の名前という具体的な正解をすぐに知りたい」という子どもたちの現場でのニーズとの間に明確なギャップが生じた。専門家ではない私たちが、安易に答えを教えずに問いかけを通じて子どもたちの知的好奇心を引き出すための、均一化されたスキルが不足していたことは、指導者としての大きな反省点である。

これらの現実的な壁と人員不足、そしてメンバー各々が今後の進路に向けた学業へ注力していく時期であるという背景から、本プロジェクトとしての継続的な活動は本年度をもって終了とする。しかし、この1年間の試行錯誤から得た教訓は決して無駄ではなく、詳細な運営マニュアルおよびワークシートのひな形として確立し、今後の類似活動へ提供できる「資源」として形に残すことができた。私たちが直面した壁とそれを乗り越えるためのノウハウを次世代へ引き継ぐことで、本事業の最終的な役割を果たしたいと考えている。このプロジェクトを通して、情熱だけでは事業は動かず、限られたリソースの中で教育的な理想と現実的な安全性やニーズの最適な折り合いをつける能力の重要性を学んだ。今後はこの経験を糧に、常に心にゆとりを持ち、多様な課題に対して俯瞰的な視点からバランスよく最適解を導き出せる視座を大切にしていきたい。ゼロから企画を実行に移す難しさと向き合い続けた日々の学びを、将来の社会的な目標に向けたステップアップへと確実に繋げていく所存である。

## 7. 実施メンバー

代表者 堀之内 江風（農学部2年）

構成員 森井 桃花（経済学部2年）

森分 遥斗（経済学部2年）

蓬萊 愛理（農学部2年）

## 8. 執行経費内訳書

配分予算額		199,698円		
執行経費（品目等）	数量	単価(円)	金額(円)	備考
小学館の図鑑NEO[新版]植物	5	2,129	10,645	
ファイル 10冊	2	489	978	
色画用紙 10枚	2	348	696	
チラシ印刷代	1	5,310	5,310	
船のチャーター	1	33,000	33,000	
旅費（小学校への宣伝とチラシ配布）	3		7,180	
合計			57,809	